

## 27 気管浸潤・広範な内頸静脈内腫瘍塞栓を伴うも切除しえた甲状腺癌の一例

中野 雅人・小山 諭・鈴木 晋  
 桜井加奈子・金子 耕司・佐藤 友威  
 内藤 哲也・金谷 有子・高久 秀哉  
 神田 達夫・畠山 勝義・神林智寿子\*  
 鈴木 聡\*・中島 真人\*・三科 武\*  
 新潟大学大学院消化器・一般外科  
 鶴岡市立荘内病院外科\*

症例は77歳女性。パセドウ病で内服加療中、昨年夏より頸部腫瘍の増大を自覚。精査でパセドウ病に合併した甲状腺乳頭癌と診断。CT, MRIで気管浸潤、広範な左内頸静脈内腫瘍塞栓、肺転移認めstage IVであった。気管閉塞の恐れもあるため甲状腺全摘、左内頸静脈切除施行。気管浸潤は第二気管輪に一部認めたが肉眼的遺残なしに切除しえた。術後TSH抑制療法で経過観察中である。甲状腺分化癌は、局所浸潤・遠隔転移があっても原発巣切除と術後補助療法によりQOL改善や延命効果が期待できるので、積極的治療が望ましい。多少の文献的考察を加え報告する。

## 28 検診で発見された粘液癌に非浸潤性乳管癌を伴った乳癌の1例

山洞 典正・湯口 卓・鈴木 俊繁  
 長倉 成憲・斉藤 英俊  
 水戸済生会総合病院外科

最近我々は検診を契機に発見された粘液癌に非浸潤性乳管癌を伴った症例を経験したので報告する。

症例は46才既婚の女性。既往：子宮内膜症で婦人科通院中。主訴：左乳房腫瘍触知。現病歴：平成14年11月28日当院の乳癌検診にて左乳房BE領域に径7mmの腫瘍を指摘された。12月13日切除生検施行し、粘液癌の診断であった。平成15年1月24日追加切除手術施行し、術後の組織診断にて組織系の異なる非浸潤性乳管癌が疑われたため、2月14日再追加切除施行した。組織検査で切除断端陽性の診断であったため最終的には3月14日単純乳房切除術を施行した。切除乳房に

も非浸潤性乳管癌を認めた。現在外来フォロー中である。

乳癌には稀に組織系の異なる乳癌の発生が見られる。慎重な画像、病理検査が必要である。

## 29 精神科入院中に外科へ紹介となった患者の検討

榎本 剛彦・下山 雅朗・齋藤 六温  
 厚生連魚沼病院外科

【背景】当科では精神神経疾患を持つ外科疾患の患者を積極的に受け入れており、その現状について報告する。

【対象】平成14年4月からの1年間に精神神経疾患の既往をもつ患者で、外科へ紹介された患者のうち手術を行った3例について。

【結果】年齢は64～66歳。男性1例、女性2例であった。疾患名は大腸癌2例、乳癌1例であった。精神神経疾患は統合失調症2例、うつ病1例でありいずれもコントロール良好であった。3例中1例は術後10日目に急性心筋梗塞を発症し転院となったが、2例は術後、精神科へ転院となった。入院期間中特に精神神経疾患の増悪は見られなかった。

【結語】精神神経疾患は術前にコントロール良好の場合特別な管理は必要としなかった。